

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 4271600639 | | |
| 法人名 | 有限会社あすなろ | | |
| 事業所名 | 有限会社あすなろグループホームまごころ | | |
| 所在地 | 長崎県五島市富江町職人307番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 22年 4月 28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・理念の通り「思いやりとまごころ」をもってケアをするように心がけている。 ・ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し時間に促されることなく自由にのんびり暮らすことが出来る。 ・食事は冷凍食品を一切使用しない「手作り」に拘り地元の食材を多く取り入れ利用者の健康づくりに力を入れている。 ・行事の際には利用者・ご家族・地域の方々等大勢招き、盛大な会を催し皆様に喜んで頂いている。特に敬老会のプログラムは充実しており多方面からの出し物も好評である。 |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F | | |
| 訪問調査日 | 平成 22年 1月 20日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>五島の海と緑に包まれた“まごころ”は、平成16年に開設した。平成21年、事情があり、ホームの体制変更等を皆で協力して行ってきた。開設から6年、“まごころ”込めたケアは変わらず行われており、ご利用者やご家族の希望に応じて、馴染みの理容室や洋品店へ出かけたり、郵便局へお連れして、ご利用者が書かれたご家族宛ての手紙を、ご自分で投函して頂く等の支援も行っている。運営者である事務長は、可能な限り、月に1回は自宅訪問を行うようにしており、ご家族からの意見やご希望を伺う取り組みを続けてきた。ご利用者同士の関係も温かく、他のご利用者の歩行器を準備し、ひざ掛けを掛けてあげ、椅子を引いてあげたりと、日々の生活の中で支えあっている光景がよく見られている。ホームの食事は、できるだけ市販のものを使わないようにしており、ポン酢やドレッシング、すり身も職員手作りのものを提供し、畑で採れた新鮮な野菜を使って料理をしている。ご利用者は、ほぼ毎日、ホーム周辺の散歩を楽しまれており、テーブルにはご利用者が摘んでこられた季節の花が飾られている。前管理者の“ご利用者への思い”を全職員が引き継ぎ、温かいホーム作りを目指して、一歩ずつ歩み始めている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームが地域に溶け込み、入居者が孤立することなく生活出来る様運営理念を作成した。これまでと変わらない生活が出来ることを大切に支援している。 | 平成14年の開設時より「思いやりの心でまごころの介護」という独自の理念が掲げられており、考えをより細かに表した“前文”が付けられている。ホームではご利用者の生活ペースを大切にしており、職員はご利用者の生活ペースに寄り添いながら、日々の生活の中でご利用者が持つておられるお力を発揮して頂けるよう日々支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方々には普段から気軽に声を掛け敬老会等の行事に招待したり、地元祭りのみこしを招いたりするなど地域の一員として積極的に交流を図っている。 | 町内会に加入し、ご利用者と職員で回覧板や廃品回収の活動等に参加している。ホームは“子供110番の家”も担っている。ご利用者は、町内の敬老会や富江祭り、町民体育祭等、地域の行事に参加されており、ホームでは、小中高の学生の職場体験の受け入れを行っている。富江まつりの時には、ホームにお神輿に来て頂いた。 | ご利用者の地域行事への参加の機会が、更に増やせるように取り組んでいきたいと考えておられる。また、今年は実現できなかった幼稚園との交流を、来年は実施したいと考えておられる。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域住民や入居者を交え施設前のベンチで会話したり、ホーム内に招くことによって認知症の方への理解を深めていただくよう努めている。学生職場体験学習の受け入れも実施している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議後、必ず職員会議等で内容の報告をし参考にしていく。又会議を行っている中で情報交換も出来る為今後も継続していきたい。 | ホーム内の体制変更等があり、一時開催が中断したが、2ヶ月に1回を目標に会議を開催しており、ご利用者、ご家族、町内会長、民生委員、市の職員が参加されている。話し合いを通して、町内会長からの提案で、市に働きかけて頂き、ホームの外に外灯を設置して頂く等、具体的な改善が図られている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役所へ積極的に足を運び事業所の実情を伝え、情報収集もしている。(町内会や老人会の集まりに同行させてもらうことがある。)同業者からの情報もある。役所主催の研修等には必ず参加している。 | 市の担当者は、運営推進会議に毎回出席されており、「何かある時はいつでも声をかけて下さい」と気軽に言ってもらえ、ご利用者が小学校の運動会を間近で見学できるように相談すると、運動場に車を近付けられるよう検討下さる等、良好な関係が保たれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束禁止マニュアル」を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関・居室の施錠はせず、網戸にして解放している。 | 職員は身体拘束を行わないケアを理解した上で、日々のケアに取り組まれている。防犯上、夜間のみ玄関を施錠することはあるが、日中は鍵をかけることはなく、ご利用者が自由にホームの外に出られ、ホームの周りに咲く花を摘んでこられたり、ホームの畑に行くと食事を使う野菜を取ってきて下さる環境が保たれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束とは何か、全職員が十分理解しており、身体拘束廃止に関する外部研修会にも積極的に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会に参加し職員間で勉強し理解を深めている(他ユニットではあるが現在利用している入所者がいるので勉強している。) | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時等、契約書や重要事項説明書などの重要箇所は線引きや繰り返し説明する事によって十分理解・納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 目安箱を玄関に設置し意見等を取り入れている。入居者に対しては常に傾聴する態度で接し、家族には面会時や家庭訪問時に要望等を伺っている。又、面会が少ない家族には電話や文書で連絡を取り合い情報を得ている。 | 運営推進会議やご家族の面会時、ほぼ毎月行われている事務長の家庭訪問を通して、ご家族から直接ご意見を頂いており、会議を通して職員間で検討している。ご家族より「移動の時に転ばないかが心配で、更に見守りを強化して欲しい」とのご希望を受け、見守りを行うと共に、手すりの設置を検討する等、改善に向けて取り組んだ。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議や雑談時、意見を出し合うことがある。 | 職員は、職員会議の場を通してホーム運営への提案や意見を積極的に伝えられている。職員は、それぞれのご利用者に応じた服薬介助の方法や日誌等の書類の綴じ方、勤務体制への提案等、職員会議で提案しており、施設長を交えて検討されて具体的に運営へ反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日常的に職員とコミュニケーションを図り各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修に計画を立て積極的に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 食事会や敬老会、花見などの交流は多い。他施設へ訪問し勉強会に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者の言葉・行動を観察し不安感がないか入居者の目線で話を聞き見極めるよう努めている。安心を確保する為、その方の側に座り手をとって擦るなど寄り添うケアに心掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の気持ち・要望を十分理解した上で事業者として出来ること・出来ないことを説明し納得していただきサービスの開始を実施している。(事前に話し合いをしている。) | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族の要望を聞き十分理解している。施設を何度か訪問していただき顔なじみの関係を築きその中で信頼を得る。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活の中で利用者との裁縫・調理などの共同作業の中から学ぶことがあり又、手助けをすることで関係を築いている。(行事やしきたりなど入居者から学ぶことも多い) | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来所の機会を作るために行事を企画したりしている。なるべく面会に来ていただけるようお願いしている。訪問時は、家族も一緒にドライブに出かけたりレクリエーションに参加し体操等を一緒にしたりすることもある。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 理美容院、洋品店、病院、酒屋など入居者本人のこれまでの「つきあい」を大切にしている。 | ご利用者やご家族の希望に応じて、馴染みの理容室や洋品店へ出かけたり、郵便局へお連れしてご利用者が書かれたご家族宛ての手紙を、ご自分で投函して頂く等の支援を行っている。また、ご利用者と長年お付き合いのある方に、お中元やお歳暮をお送りする支援も行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 杖をとって上げたり歩行器を準備したり、ひざ掛けを掛けてあげたり、椅子を引いてくれたりと・・・日々の生活の中で支えあっている光景がよく見られる。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院に見舞いに行ったり、他の施設に会いに行く等している。亡くなられた際には葬儀に参列したり弔電を打っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションを通じて、思いをくみ取る努力をし本人の意向を優先的に考えている。話を聞いて解決困難な場合はそのままにせず本人本位に検討している。 | 職員は、ご利用者との会話を通して、ご利用者がやりたい事、食べたい物、行きたい場所等を聞きながら、ご利用者が望まれている暮らしのあり方を見つめ続けている。事務長は、可能な限り月に1回家庭訪問を行うようにしており、ご利用者の日頃のご様子を伝えと共に、ご家族からの意見やご希望を頂く取り組みを続けている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | サマリーや家族からの情報でこれまでの生活の経過を把握している。使い慣れた家具を持ち込み、趣味を生かすための物品を持参したりすることで個々の暮らしを大切にしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝のバイタルを参考にする等入居者の心身状態の把握、一人ひとりの1日の流れを全職員が把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 来所時や電話連絡により家族の意向、又入居者との会話の中で希望や思いを聞き取りケアプラン作成に活かしている。月に1回のモニタリングと3ヶ月に1度の計画の見直しを実施し、その時の状況に応じた介護計画を作成している。 | ご利用者の担当職員が作成した計画の原案を、会議を通して全職員で検討を行い、計画作成担当者が計画としてまとめあげている。計画は、主治医や管理栄養士等、専門職からの意見も頂きながら作られており、ご利用者が楽しみにされている畑の野菜の収穫やぞうきん縫いといった役割が盛り込まれたものとなっている。 | アセスメント用紙の形式も、今後より使いやすいものを検討予定にしている。今後より、ご利用者の生活に即した計画となり、職員や関係者全員で支援内容の共有が深められるように、個別援助計画書等を作成されてはいいかがであろうか。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入所者の変化・気付き等は申し送り帳や介護記録に記入し全職員で情報の共有に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 可能な限り、入居者のその時の心身の状況や希望に応じて対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事以外にも地域の方々・地元の警察官・民生委員の方が訪問して下さり、又 年2回の防災訓練実施時には地元の消防署に協力依頼している。学生ボランティアの受入も実施している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の希望する医療機関を選択している。定期受診は職員のみ同行しているが、状態の変化が見られる場合は家族へ連絡し可能な限り家族も一緒に主治医からの説明を受けるようにしている。 | 定期受診の通院介助は職員が行っているが、体調の変化がみられる時には、ご家族に同行して頂き、医師からの説明を受けて頂いている。結果についてはご家族の訪問時に行い、急ぎの場合はその都度電話で報告する。主治医へ電話で相談をしたり、往診の依頼ができる関係が築かれているが、夜間の往診依頼は難しい状況。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療機関主催の勉強会へ参加した時や受診時に相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中も利用者が安心して治療できるように職員交代で面会に行き経過を把握している。退院時には主治医から看護サマリーを頂き、口答での説明も受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に事業所として対応できること・できない事を説明し納得した上で、主治医、家族からの意見要望を取り入れケアを行えるよう努めている。 | 事業所が医療機関ではないことを十分理解して頂いた上で可能な限りのホームで生活して頂けるよう、対応を心がけている。ご利用者の状況の変化に応じて、ご家族と主治医を交えての話し合いの場を持ち、ご利用者の状態を把握しながら、これからの支援方針の共有を図っている。医療機関への相談やご家族への協力依頼を行うと共に、職員間での勉強会を行い対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ミーティング時、緊急時対応マニュアルにそった勉強会を実施している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防総合訓練を定期的開催し実践訓練を実施している。緊急時に備えて地域住民へ協力依頼し了解を得ている。 | 年に2回、防災管理会社の職員の立会いのもと、ご利用者と職員で避難誘導訓練を行っている。あらかじめ町内会長と地域の消防団員へ協力依頼を行っており、災害時にはホームの自動火災通報装置を通して連絡が行くようになっていく。災害時に備え、懐中電灯、非常持ち出しバック、緊急時連絡先一覧表等を準備している。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 名前は「○○さん」と苗字で声掛けし、居室へ入室の際はノックをするなどプライバシーの尊重に心がけている。 | 職員の休憩室には“非4原則(してはいけない事)”が掲げてあり、職員が業務に入る前に確認できるようにしている。日々の中で気になる言動などがあつた時は、職員同士で伝えたり、事務長から職員へ伝えるようにしており、職員は常にご利用者お一人一人の気持ちを大切にしながら、敬意をもった言葉かけを行われている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 会話の中で本人の希望・思いをひきだすと共に自己決定できるような様な言葉掛けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | それぞれ自由にテレビをみたり、隣に遊びに行ったり居室でくつろいだりと自分のペースで生活している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人が希望する馴染みの理美容院を利用している。お化粧される方には、側で声掛けし支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みの料理をメニューに加え、皆で楽しい食事の時間を過ごしている。利用者のその日の気分で職員と一緒に食事の準備・おやつ作り・片づけをお願いしている。 | 献立は、ご利用者の希望を聞きながら職員が考えており、月に1回市の管理栄養士に確認してもらい、随時改善が図られている。ホームの食事にはできるだけ市販のものを使わないようにしており、ポン酢やドレッシング、すり身も職員手作りのものを提供している。テーブルにはご利用者が摘んでこられた季節の花が飾られている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの適当な水分・食事摂取量を把握し、食事量のチェックをしたり水分量を確保する為の定期的な水分補給をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後には必ず口腔ケアを実施し、1回/週義歯やコップ、歯ブラシ等の消毒も実施し清潔に心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンや習慣を把握し(排泄チェック表の活用)、食事の前後等定期的にトイレ誘導し自立にむけた支援をしている。 | 職員は、ご利用者の排泄間隔を把握しており、それぞれのご利用者に応じた排泄支援を行っている。使用するパットの枚数が減ったり、紙パンツを使わずに過ごせるようになったご利用者もおられる。職員は、トイレにカーテンをかけたり、さりげなく居室へお連れして着替えて頂く事で、ご利用者の羞恥心への配慮に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を多めに飲用して頂いたり、料理献立には牛乳や根菜を多く食材に取り入れる工夫をしている。又 個々の身体の状態に合ったレクレーション内容に心がけ、身体を適度に動かすような言葉掛けもしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入所者本人の希望やその日の体調を考慮し、職員と楽しく会話しながらゆっくりと入浴して頂いている。 | 入浴回数や時間帯、湯温や入浴剤の希望をお聞きし、ご利用者の好みに沿った入浴支援が行われている。また、ご希望に応じて、個人の好みのシャンプーや石鹸等を使って頂いている。入浴を好まれない方には、無理強いせず、時間を置いて声かけを行ったり、ご利用者が希望された時間に入浴して頂く等の対応を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の適度な活動量の確保に努めている。冬場は湯たんぽ使用し、毎日足浴を実施するなど安眠できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師の指示を十分理解し、薬の目的・作用・副作用を確認しながら服薬の支援をしている。体調の悪化を見逃さないよう観察を十分に行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の趣味を活かし、折り紙をしたり縫い物や調理準備・掃除など自分の得意な事を楽しみながら行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | その日の天気・身体状態を考慮し、可能な限り 利用者本人の希望する場所へ散歩・ドライブ・買い物等に同行している。 | ご利用者は、ほぼ毎日ホーム周辺の散歩を楽しまれており、ご利用者の希望に応じて、馴染みの店への買い物やクリスマスイルミネーションの見物、季節ごとの花見や海を見に出かけている。近隣の施設の中になる喫茶スペースにコーヒーを飲みに出かけることもある。外出が少ないご利用者でも、週に1回は外出しており、屋外での活動を楽しまれて | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 数名は自己管理されており、金銭の紛失事故を防止するために職員見守りのもと入所者本人の希望に応じ買い物を楽しんで頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話があれば居室に子機を持参し会話して頂いている。又、手紙の読み書きが出来ない方には代読・代筆の支援もしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | トイレもカーテンで目隠ししプライバシーを損なわない配慮をしている。玄関・食堂は季節の花を飾るなどして落ち着けるような空間づくりに心がけ心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ユニットごとに部屋の作りが異なり、それぞれのユニットに応じて、ご利用者がゆっくりできるような量のスペースが設けられている。ご利用者同士の会話を楽しめるように、テーブルを囲んで座るように椅子を配置する等の配慮が行われている。職員は、テレビの音量や部屋の明るさの調整等、環境への配慮を細かに行っている。事務長がキーボード伴奏を行い、ご利用者の歌声が聴かれる事もある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 各居室で過ごしたり、リビングは広々とした空間で畳やソファーにゆったりと腰掛け、のんびり過ごせるよう心がけている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の大切にしているものは身近において家の中にいる感覚で過ごして頂いている。(使い慣れた物品の持込みを勧めている) | 入居の時に、馴染みの物を持ってきて頂くようにご利用者とご家族へお伝えしており、自宅で使っておられたタンスや写真、裁縫箱やお仏壇を持って入居されたご利用者もおられる。入居後も、ご利用者やご家族と相談しながら家具の配置を変えるなど、ご利用者に居心地良く過ごして頂けるよう、工夫を続けている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 毎日の生活の中で身の回りの事など出来る限り自分でできるよう支援する。利用者本人が悩んだり手助けが必要な時はさりげなく支援する。建物内部各所には自立ができるように手摺を設置し、安全を重視した環境作り心がけている。 | | |

事業所名: 有限会社あすなろ グループホームまごころ

作成日: 平成 22 年 4 月 27 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。 | | | | | |
|--|------|---|----------------------------|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 26 | 介護計画をより一層充実させなければならない | アセスメント用紙の形式を取り入れて行く | アセスメント用紙の形式を作成し活用する | 2 ヶ月 |
| 2 | 10 | 事務長が家族の方と会話を通して意見等頂いているがそれに加えて、管理者及び全職員が家族の方の意見要望を求めて行かなければならない | 少しでも家族との交流を深めたい | 事務長や管理者で家庭訪問をし会話を深めたい、又利用者の方への面会時は、全職員で家族の方と雑談を交え会話する | 6 ヶ月 |
| 3 | 2 | 地域の方の協力により、年々上向きの参加を頂いているが更に多くの参加を呼びかけていきたい | 中、高生は、勿論のことだが幼稚園児との交流を深めたい | 直接、学校や園の方へ出向き参加して頂けるよう積極的にお願いして行く | 6 ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |